

北極圏旅行記 2017-2018 冬 (最終回)

～1/3 さようならフィンランド～

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

今回、ヘルシンキ市内までやってきたが、飛行機の離陸まであまり時間はなかった。市内には見どころはあるが、一番の目当ては市の中心部にある「ムーミン・ショップ」だ。ここは、中央駅から徒歩数分で、夏にも訪ねた場所なので、寄りたいたと思っていたのだ。



ここがそのムーミン・ショップ。よくよく聞いたら、お店の前の広場に駐車できることがわかり、苦労して買ったパーキング・チケットが少し残念だった。



「ムーミン・ショップ」といっても、ムーミンそのものを売っているわけではない。「ムーミン関係のグッズ」のお店である。ムーミン関係のものなら何でもある。ムーミンファンだったら、一日中いても飽きないだろう。日本人の店員さんもいて、品物のことや、市内観光のアドバイスもしてもらえるのが嬉しい。



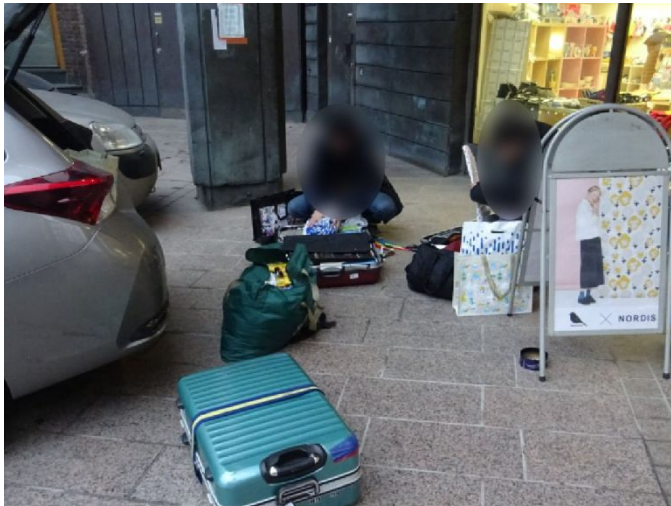
値札にも日本語表記があるのが、大変嬉しい。しかし値段は少し高い。税金が20%以上入っていることでもある。それも、一定額以上買えば、その場で免税手続きをして、値引きしてくれるので助かった。



お店の真ん中に、ちょっとした休憩スペースがあって、お茶とクッキーを楽しめる。市内観光に疲れた旅行者には嬉しいサービスだ。



結局1時間近くかけて、「ムーミン爆買い」をしてしまった。あとは飛行機に乗るだけなのでいいだろう。



飛行場では荷造りしたくないので、お店の人に許可を得て、店の前の駐車場でスーツケースの荷造り。完全に「観光客」である。しかし、しっかりとパッキングできたので、チェックインが楽だった。



ショップをあとにして、一路空港へ。それほど遠くなく、30分程度のドライブだ。ここでもナビが非常に役立った。

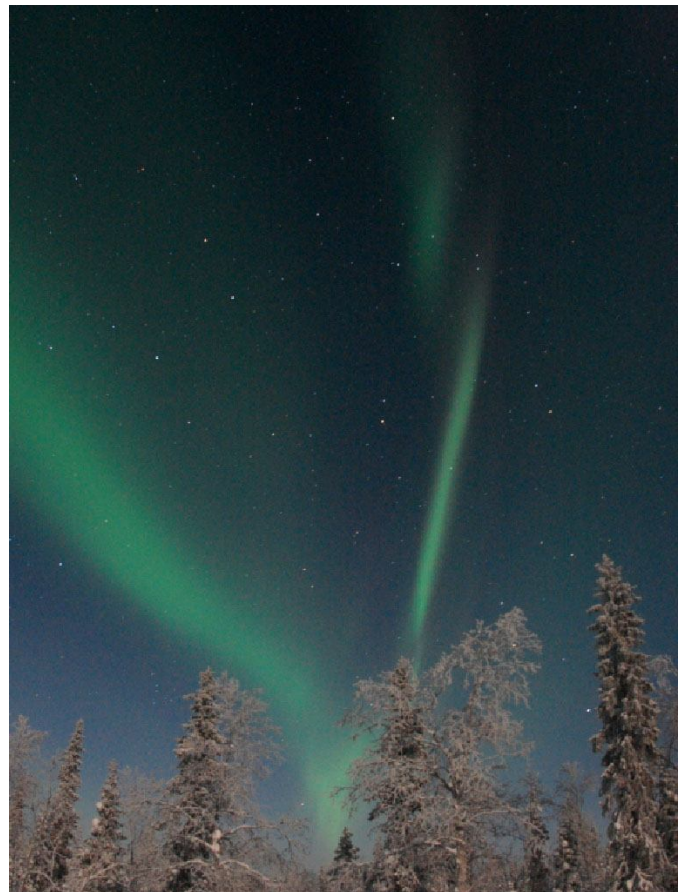


ナビ通りに走ったら、裏道の公園通りに入った。冬枯れの公園の風景も楽しめた



しばらく走ると、空港の表記が現れて安心した。ヘルシンキのドライブは初めてだったが、面白かった。

フィンランドに2泊、スウェーデン（極夜の北極圏）に6泊、機内1泊、合計9泊10日の北欧旅行だった。何ととっても印象に残ったのは、月明の中に幻想的に舞っていたオーロラだ。オーロラは何度も見たが、何度見ても決して飽きるということがない。



「過ぎた時も、どこかに残っているのだろうか」という「哲学の問い」がある。「時間は液体に似ている」という理論もある。私はこの一瞬のオーロラは、北極圏の時空のどこかに、まだ存在しているような気がしてならない。それをもう一度見に行きたい。